

田中 真琴 高島市立青柳小学校(滋賀県)

単元名:ひろがれ!わたしのせかい!		
氏名:田中 真琴	学校名:高島市立青柳小学校	
担当教科:全教科	実践教科:学級活動、国語	
時間数:12時間	対象学年:2年	人数:20人
使用教材:ペルーで撮影した写真、ペルーでの購入品、教科書(「小学生の音楽2年生」(教育芸術社)、「小学国語二(上)」(教育出版))、JICA世界地図、国旗カード、「ワークショップ版・世界がもし100人の村だったら[第7版]」(開発教育協会)		

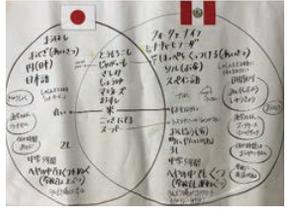
【実施概要】

【1】単元の目標		
ペルーのことを知る活動を通して、世界に興味や関心をもち、世界を身近に感じたり自分事として考えたりすることで、世界の人々と共に生きるために自分にできることを考える。		
【2】 単元の評価 規準	(ア) 知識・技能	ペルーや世界の国々について理解している。
	(イ) 思考・判断・表現	・ペルーと日本の違いを見つけたり、ペルーのよさに気づいたりしたことを理由をつけてまとまりのある文章になるように工夫している。 ・世界中の人と仲良くなるために自分ができることを主体的に考えている。
	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度	・世界の国々の文化や習慣などに興味関心を持ち、外国の文化を大切にしようとしている。
【3】 単元設定の 理由	<p>【児童観】 本校が所在する高島市には、近年外国籍住民が増加しており、令和6年12月時点で884名が暮らしている。しかし、本校には外国籍の児童は在籍しておらず、児童が日常生活の中で外国の人と関わる機会はほとんどない。そのため、児童の多くは外国や異文化に関する知識や理解が十分に深まっておらず、これまで外国について学ぶ機会も限られていた。一方で、ALTによる外国語の授業を楽しみにしている児童が多く、進んで挙手をしたり、活動に意欲的に参加したりする姿が見られるなど、外国や外国語に対して興味・関心をもっている。しかしながら、その関心は授業の中にとどまり、外国の文化や人々の生活が自分たちの生活や社会とつながっているという実感には至っていない。今後、地域社会においても外国にルーツをもつ人々と共に生活する機会が増えていくことが予想される中で、児童には、多様な文化や価値観をもつ人々を理解し、互いに尊重し合いながら共に生きていく力を育むことが求められる。</p> <p>【教材観】 本単元ではペルーを取り上げ、日本との共通点や相違点を通して世界の多様な文化や生活の在り方を理解することをねらいとしている。ペルーは、アンデス山脈やマチュピチュ遺跡などの雄大な自然や歴史、豊かな食文化や音楽など、児童の関心を引く題材が多く、日本とのつながりも深いことから、外国を身近に感じさせやすい教材である。外国の人々と関わる機会が少ない児童にとって、ペルーの人々のくらしを具体的に知ることは、外国を「遠い存在」から「自分たちと同じように生活する人々」として実感を伴ってとらえるきっかけとなる。また、ペルーという一つの国に焦点を当てながら学ぶことで、児童は「国によって文化や生活の形はさまざまである」という気づきを得られる。その学びをもとに、さらに他の国々にも関心を広げ、世界全体の多様性に目を向けることができるようにすることが、本単元の大きな意義である。このようにペルーを入口として世界に視野を広げる学びを通し、児童が多様な文化や価値観を尊重し、世界の人々と共に生きていくための基礎となる態度を育てたい。</p>	

【指導観】

本単元では、ペルーという具体的な国を題材として、日本との共通点や相違点に気づきながら、児童が世界の多様な文化や価値観に関心を持ち、理解を深めていくことを目指す。授業者は、児童がペルーの自然や文化、生活の様子を具体的な資料や映像を通して学ぶ中で、異なる文化の中にも自分たちと似た思いや生活があることを実感できるように指導する。学習を進めるにあたって、自分たちの生活と関連づけて考えたり、日本やペルー以外の文化にも目を向けたりすることで、ペルーでの学びを世界へと広げていく視点を養うようにする。授業者は、児童の素朴な疑問や興味を大切にしながら、外国と日本の文化を比較したり優劣をつけたりするのではなく、それぞれの文化の背景や人々の思いを尊重する姿勢を育てるよう努める。そして、学習のまとめでは、「世界の人々と仲よく生きるために自分ができること」を考え、世界に目を向けながら共に生きる態度の育成を図る。

【4】展開計画(全12時間)

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 2 学活	ペルーについて知ろう! ～食べ物 編～ ねらい ・ペルーの食べ物や建物に関心を持ち、日本との違いや共通点に気づく。 ・世界にはいろいろな国のくらしや考え方があることを知り、他の国の人や文化を大切にしようとする気持ちを育てる。	・ペルーの概要を知る。 ・ペルーの食べ物を知る。 ・ペルーの建物について知る。 クイズやフォトランゲージで学び、日本との共通点や相違点を話し合いながら表にまとめる。 	・ペルーで撮影した写真 
3 4 学活	ペルーについて知ろう! ～学校 編～ ねらい ・ペルーの学校生活や楽器に親しみをもち、日本との違いや共通点に気づく。 ・世界にはさまざまな学び方や楽しみ方があることを知り、他の国の人々や文化を大切にしようとする気持ちを育てる。	・ペルーの学校を知る。 ・ペルーの楽器を知る。 クイズやフォトランゲージで学び、日本との共通点や相違点を話し合いながら表にまとめる。 ・スペイン語を知る。 ・教科書掲載の歌「メッセージ」を歌う。 ペルーの公用語であるスペイン語に親しみ、「メッセージ」の歌にスペイン語のあいさつを入れて歌うことで、異文化への理解と親しみを深める。	・ペルーで撮影した写真 ・ペルーで購入した楽器 ・「小学生の音楽2年生」(教育芸術社)
5 国語	ペルーの「すてき」をつたえよう ねらい ・自分が感じたペルーの「すてき」なところを選び、その理由を自分の言葉でまとめる。 ・学んだことを整理しながら、感じたことや考えたことを相手に伝えようとする力を育てる。	・第1～4時で作成した「日本とペルーのちがいの表」を見ながら、自分が「すてきだな」と感じたところを選ぶ。 ・「すてき」と思う理由を箇条書きで整理し、下書きメモを作成する。 自分の考えをまとめる中で、ペルーの魅力や多様な文化への関心を深める。	・「小学国語二(上)」(教育出版) 

<p>6 7 国語</p>	<p>ペルーの「すてき」をつたえよう ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3時でまとめた下書きメモをもとに、理由を文の形でつなげながら書く。 ・自分が感じたペルーの「すてき」を、わかりやすく伝える力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第5時で作成した下書きメモをもとに、ペルーの「すてき」を伝える文章を考える。 ・「どうしてか」というと、～からです。」の文の形を使って、理由をわかりやすく書く。 ➡児童が書いた『ペルーの「すてき」』を動画で撮影し、ラ・ビクトリア校に送り交流を行う。 	<p>・『小学国語二(上)』(教育出版)</p>
<p>8 学活</p>	<p>世界の国について知ろう ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界地図や国旗などに親しみながら、世界にはたくさんの国があることを知る。 ・日本やペルー以外の国にも目を向けて、さまざまな国や文化に関心をもつ態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界地図から日本とペルーを探す。 ・知っている国を探す。 ・世界地図を見て、知っている国やあいさつを探す。 ・半分に切った国旗でマッチングゲームを行い、マッチした友だちと世界地図から国を探し、白地図に色を塗る。 ➡常時活動として活用し、世界への関心を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・JICA世界地図「世界の国からこんにちは／素敵な出会いをありがとう」 ・ぶりんとときっず「国旗カード」 
<p>9 学活</p>	<p>世界の国について知ろう ～国調べ～ ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味のある国を選び、その国を調べる。 ・世界には多様な国があることを理解し、他の国への関心や親しみを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の中から興味をもった国を一つ選び、その国について調べる。 ・国旗や場所、言語、通貨、有名な食べもの、有名な場所などをデジタルツールを使って調べる。 ・調べた内容をロイロノート(授業支援ツール)にまとめ、自分なりに分かりやすく整理する。 	
<p>10 学活</p>	<p>世界の国について知ろう ～国調べ～ ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が調べた国のことを友だちにわかりやすく伝えたり、友だちの発表を聞いたりする。 ・世界にはさまざまな国や文化があることを知り、児童同士で学びを深めながら世界への興味関心を深める。 	<p>【国の人(発表者)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のブースで、ロイロノートを使って調べた国の紹介を行う。 ・聞きに来てくれた友だちに「入国シール」を貼り、交流を楽しむ。 <p>【旅人(見学者)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味のあるブースを自由に回り、国の説明を聞く。 ・話を聞いたら、自分のパスポートに「入国シール」を貼ってもらう。 <p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな国のブースをまわりながら、世界の広がりや文化の多様さを感じる。 ・活動のあと、印象に残った国や新しく知ったことをふり返る。 	 <p>▲驚いたり、質問したりしながら国紹介を楽しんでいる様子。</p>  <p>▲説明を聞き終わってパスポートに「入国シール」を貼ってもらっている様子。</p>

11 学活 本時	世界の人となかよし大作戦! ねらい ・高島市に住む外国の人々の存在を知る。 ・言葉や文化のちがいをこえて相手を理解しようとする態度を育てる。	・高島市に住む外国の人の数を知り、身近に多くの国の人が暮らしていることを知る。 ・言葉が通じない場面や、文字が読めない場面を体験し、外国の人が感じる困りごとや不安に気づく。 ・外国から来た人と仲よくなるためにできることを考え、ALTの「マリア先生」と楽しく交流するためのアクティビティを話し合う。	・高島市国際協会国籍別外国人人口(2024年12月末) ・「世界がもし100人の村だったら 第7版」(開発教育協会)をアレンジ
12 学活	世界の人となかよし大作戦! ねらい ・これまでに学んだことを生かして、マリア先生との交流を楽しむ。 ・言葉や文化のちがいをこえて相手に伝えようとする力や、世界の人と仲よくしようとする心を育てる。	・第11時で考えたアクティビティを実践し、マリア先生と楽しく交流する。 ・アクティビティを通して、自分の思いを表現しようとする。 ・感じたことや学んだことをふり返り、外国の人と関わる時に大切にしたいことや楽しさを共有する。 	

【5】本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入(5分)	1. 課題を知る。 ○高島市に住んでいる外国籍の人たちについて知る。 ○これから外国にルーツのある人たちと関わっていくことが必須になることを知る。 ○『なかよし』について考える。	・1番身近にいる外国の人としてALTのマリア先生を想起させる。 ◆単元に結び付くようにマリア先生と「もっとなかよくなりたくない?」などの声掛けを行う。	高島市国際協会国籍別外国人人口(2024年12月末)
めあて マリア先生となかよくなるためにできることを考えよう。			
展開(35分)	2. 言葉がわからない活動を行う。 3. 文字が読めない活動を行う。 4. 2.3の活動を通して言葉や文字がわからないときにどうしたらよいか案を出し合う。 5. マリア先生となかよくなるためのアクティビティを考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・不安などの気持ちに気づけるようにする。 ◆様々な意見が出るように具体的な場面を伝える。 ・1グループ10分くらいでできるアクティビティを考える。 ・マリア先生が孤立しないような内容にする。 ・マリア先生が楽しいと感じる活動にする。 ◆遊びに偏らず、マリア先生の国や文化について知る活動が入るような声掛けを行う。 	「世界がもし100人の村だったら 第7版」(開発教育協会)をアレンジ
まとめ(5分)	6. めあてに返る。	「マリア先生となかよくなるためにできそうなことは何?」 ・自分ができそうなことに★マークを貼り、理由を言う。	

【授業実践の様子】

▼言葉がわからない体験



(何してるの?
どういう意味?)

(変な空気が
なってない?)

▼文字がわからない体験



何でこのドアを
えらんだの?

茶色で
ドアっぽいから

文字が
わからないから
なんとなく!

赤だから
女の子のトイレ
かなと思ったから

▼作戦会議



もっと
マリア先生のこと
知りたいから
インタビュー
するのはどう?

絵でなら
伝えられるかも!

私、少し英語を
しゃべれるよ!

【6】本時の振り返り

児童はペルーについて知る学習や世界の国を調べる学習を通して「世界のことについてもっと知りたい!学びたい!」という意欲をもって、本時の学習に主体的に取り組んでいた。【言葉がわからない活動】や【文字がわからない活動】では、楽しさの中に難しさを実感しながら、外国から来た人たちが感じる不安や困りごとに気づくことができた。また、言葉が通じない場面でどのように気持ちを伝えればよいか、伝え方の工夫について考える姿も見られた。一方で、その体験を踏まえてグループでアクティビティを考える場面では、話し合いが進みにくい様子があった。まず全体でアイデアを出し合ってからグループで絞り込むなど、段階を踏んだ話し合いの構成にすると、より考えが深まりやすかったのではないかと考える。また、本時は活動内容が多く、児童が一つ一つの体験を十分に味わい、考えを整理する時間がやや不足していた。活動2・3・4と活動5をそれぞれ1時間ずつ扱うなど、活動を分けてじっくり取り組めるようにすることで、より深い学びにつなげられたように思う。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

第1～4時「ペルーについて知ろう」

日本とペルーのくらしや文化の違いに気づき、自分たちの生活を見つめ直す姿が見られた。また、ペルーについて詳しく知る中で、「ほかの国のことももっと知りたい」という思いが芽生え、世界への興味関心が広がっていった。

ペルーの言葉はペルーと言う国だからペルー語 かと思いましたが名前といふはなくて スペイン語はかたかと思ひました	外国では、日本とは違ういろいろなルールや 慣習があるのを知りたくてたくさん学びました。 もっと外国のことを知りたい、外にも行って みたいですね。	ペルーには日本とは違う文化がたくさんありました。 ペルーには町（シヤカ）があるのを知り、その中で のちでちのちのままと習いごとを知りました。ペルーは 日本とは違う文化がたくさんあります。
---	---	--

第5～7時「ペルーの『すてき』をつたえます」

文化や習慣の違いに触れる中で、ペルーがもつ多様なよさや魅力に気づくことができました。

<p>「ペルーの『すてき』をつたえます」</p> <p>すてきは、 ペルーの休み時間におやつタイムがある がすてきだと思いました。 どうしてかという 休み時間にあたしの大 きなおやつをかたべ られるからです。</p> <p>ま月やキ、小学校では休 み時間におやつはたべつ れません。おやつタイムにマ マロをたべたいなあと思 いました。</p>	<p>「ペルーの『すてき』をつたえます」</p> <p>すてきは、 ペルーの休み時間におやつタイムがある がすてきだと思いました。 どうしてかという 休み時間にあたしの大 きなおやつをかたべ られるからです。</p> <p>ほ、よく聞いてあげると、と また、女の子の文が、か はじめてあの子ともすて かよくなれそうだなと思 ました。</p>
---	--

第8～10時「世界の国について知ろう」

ペルーについて学ぶ中で、他の国にも興味をもって自ら進んで調べる姿が見られた。どの児童も国の魅力やよさを積極的に見つけ出し、世界について知ることを楽しんで学習に取り組んでいた。

<p>国はすべてが、国のけさがすく きれいなのをした。外国の物、おもしろい物が すくおもしろいのをした。国は、おもしろい。</p>	<p>学校ではたくさん国のことをおべん教しま した。外国の名前だけじゃなく、国の食べ物や 国の場所、などまでいろいろ知りました。</p>
---	--

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

- ・ペルー訪問の予定を伝えた際、多くの児童が強い関心を示した。さらに、授業者のペルー渡航前にホセ・ガルベス校に届けるプレゼント作りに取り組むことで、児童の関心は一層高まり、家庭でもペルーの話題を口にするなど、学習が日常へ広がっていく姿が見られた。
- ・「ひろがれ!わたしのせかい!」の授業を毎回楽しみにする児童が多く、「今日は授業ある?」「次はいつ?」「もう終わり?」「もっとしたい!」という声が頻繁に聞かれた。これらの姿から、多くの児童が国際理解や多文化共生の学習に意欲的に取り組み、世界に視野を広げようとする態度が育ってきたことがうかがえた。
- ・外国や世界を遠い存在としてではなく、自分とつながる“身近な世界”としてとらえようとする態度が育った。

【授業を通じた途上国・異文化・多文化共生等への意識の変容】

(授業前)

【外国への関心や理解の不足】学習前の児童は、外国について深く考えた経験が少なく、外国を身近に感じている児童はほとんどいなかった。飲食店などで外国の方を見かけた経験はあるものの、日常生活で接する外国人といえばALTの先生のみであり、外国を理解する機会がほとんどない状況であった。

【外国へのイメージが限定的】本単元を学習する前の段階では、外国に強い興味関心をもつ児童は多くなかった。外国の文化や生活について知らないことが多かったため、「日本がいい」「外国は危なそう」という固定的なイメージをもつ児童も見られた。しかし、教師がペルー訪問をすることを伝え、児童たちは関心を高め始めた。

【外国語に対する誤解や狭い認識】多くの児童が「外国語=英語」と考えており、世界にはさまざまな言語があるということ十分に理解していなかった。

(授業後)

【世界の多様性への理解が広がった】授業を通して、世界には多様な言語・文字・あいさつ・文化・宗教・食べ物・名所があることを知り、異文化の豊かさに気づくことができた。

【異なる文化を尊重しようとする姿勢が育った】文化や習慣の違いを比較する中で、「違う=変」ではなく、「違うからこそ面白い」「その国にもよさがある」という視点が生まれ、異文化に対して肯定的に受け止める姿勢が育った。

【自分たちの生活と世界がつながっていることに気づいた】ペルーとの共通点や日本との関わり(食べ物・文化・人の行き来など)を知る中で、「世界は遠い場所ではなく、自分の生活ともつながっている」と実感できるようになった。

【8】自己評価

<p>1. 苦勞した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元を通して、低学年の児童に日系社会やペルーの歴史、日本との関わり、国際協力といった背景をどのようにわかりやすく伝えるかが大きな課題であった。児童の実態として、日本以外の国に触れた経験がほとんどなく、まずは世界に興味関心をもたせることが必要だと感じた。そのため、授業ではポジティブな情報を中心に提示し、世界の広がりや楽しさを感じられるよう工夫したが、内容を正確に伝えることとのバランスを取る難しさを実感した。 ・本校にはALT以外に外国にルーツのある人がおらず、日常生活でも外国の人と関わる機会が非常に少ない。そのため、「外国」や「外国の人」を自分事として捉えられるようにすることが特に難しかった。体験的な活動や交流場面を設定するなどの工夫を行ったが、自分の生活と世界とのつながりを実感させるための手立ての必要性を強く感じた。
<p>2. 改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の単元で学びを完結させるのではなく、1学期から年間を通して、国際理解や開発途上国、異文化、多文化共生について継続的に学ぶ時間を確保する必要性を感じた。 ・ペルーについての学習は、相違点や共通点の整理や基礎的な知識を身につける段階にとどまり、日系社会や防災の取り組み、国が抱える課題など、より深い学びにつながる内容まで十分に扱うことができなかった。これらを踏まえ、単元全体の構想をより丁寧に練り、扱う内容や活動の流れを精選していく必要があると考える。
<p>3. 成果が出た点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペルーの子どもたちへのプレゼント作りやビデオレター制作を通して、実際の交流を体験できたことで、児童は“遠い国の友だち”を身近に感じ、主体的に学習へ取り組む姿が見られた。 ・国旗を選んで世界地図上で国を探し、白地図に色を塗る活動は、単元内の一時的な取り組みにとどまらず、継続的な常時活動へと発展した。世界への関心が持続し、児童が自ら学びを深める流れをつくることができた。
<p>4. 備考</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペルー訪問前に全校児童へ訪問の予定を知らせた際、多くの児童が強い関心を示し、家庭でも話題にする様子が見られた。保護者にも関心が広がり、ペルーで購入した品々や写真を展示した「ペルー館」を設置した際には、全校児童だけでなく多くの保護者が訪れ、学校全体でペルーへの理解と興味を共有する機会となった。

添付資料:

〈第1～4時で使用したスライドの一部〉

ひろがれ！わたしのせかい！

ペルーについて知ろう！

～ペルーの「すてき」を見つけてたえよう～



時間わり 2º A PRIMARIA

	Lunes	Martes	Miércoles	Jueves	Viernes
TUTORIA					
8:00 - 8:45	REP. SOCIAL	REP. SOCIAL	TUTORIA	PERSONAL SOCIAL	COMUNICACION (IT)
8:45 - 9:30	体いく	しゅご	学活	しゃ会	同解 (スペイン語)
9:30 - 10:15	CIT	REP. SOC	DANSA FOLCLORICA	JAPONES	CULT. JAPONESA
10:15 - 10:30	りか	えいご	ふんぞくふんぞり	日本語	日本文化
DESCANSO			DESCANSO		
10:30 - 11:15	CIT (COMPUTO)	MATEMATICA	MATEMATICA	MATEMATICA	MATEMATICA
11:15 - 12:00	りか	算数	算数	算数	算数
12:00 - 12:45	COMUNICACION	TUTORIA	MOLES	えいご	りか
12:45 - 13:30	同解 (スペイン語)	学活	REFRIGERIO		
13:30 - 14:15	PERSONAL SOCIAL	COMUNICACION	CIT	COMUNICACION	PERSONAL SOCIAL
14:15 - 15:00	しゃ会	同解 (スペイン語)	りか	同解 (スペイン語)	しゃ会
15:00 - 15:30					



〈第5～7時で使用したワークシート〉

「ペルーの「すてき」をつたえます」

は、

ペルーの がすてきたと思えました。 どうしてかというと、

ばん 名前

からです。

〈第8～10時で使用したシート〉



添付資料:

〈本時で使用したスライド〉



〈本時で使用した教材〉

1メ・レバント	(立ちます)
2サルタル	(ジャンプをします)
3サルダール・コン・ラ・マーン	(手をふります)
4アセール・ウナ・レベレンシア	(おじぎをする)
5ダール・ラ・プエルタ	(うしろをむきます)
6ヒラール	(まわります)
7セントルセ	(すわります)

〈本時で使用した教材〉



※文字がわからない体験に使用

参考資料

- ・「小学生の音楽2年生」(教育芸術社)
- ・「小学国語二(上)」(教育出版)
- ・JICA世界地図「世界の国からこんにちは／素敵な出会いをありがとう」
- ・ぷりんときっず「国旗カード」
- ・高島市国際協会国籍別外国人人口(2024年12月末)
- ・「ワークショップ版・世界がもし100人の村だったら[第7版]」(開発教育協会)